

新漢語の問題

一、

言葉を殊に新漢語を、その意味も確に辨へずに使つてゐると
思考の混乱と道徳心の頹廢をもたらし、さういふ危険は
今日その極に達してゐる

新漢語の中でも抽象語は、それそれの人のそれそれの言葉に
假託してゐる意味の相違や誤解に気がかない

← 障礙が生じる

① 意味の違ひにすゝめぬに根本的意見の相違対立と思ひ
込め、不毛の論争の繰返される

② 元來の原語の外國語の持つてゐる擴がりや深さをすべて
無視し、一語一義の薄べうな意味しか持たぬものとして
通用 ↓ 生き物とは言ひかゝい死語と化する

③ 一語一義にもかかはらず、それもあれも 同義語の如く
使はれ始め、名詞であるのに形容詞的性格を帯びてくる
イデオの零團氣におほはれ、言葉としての機能を失ふ。
④ 言語体系として相互に有機的關連を持つ共同体の
一員ではなく孤立したものである。一語一義の新漢語を
用ゐて、思考の一貫性や保てるはすかたない。

← 思想や人格は山崩壊の一途を辿るのみ。

二、

漢語は和語と共に國語であり外來語ではない。
しかし新漢語は現象論としては、テレビ、トウワウ等の
片仮名表記の外來語と同様である。

←

外來語の問題について考へて見よう。
外來語も抽象語となると甚か面倒な事になる。

← ハードウェアとソフトウェア。語かす

近代化適応果敢について考へる。

戦後日本人の「適応異常」は戦前のそれよりもより深刻になった。

経済大国となり、それによって先進国になった戦後日本の対外的・対内的適応異常は、もはや一つの有機体のそれではない。

金に対する適応に成功したため、適応異常を起してゐると自覚するソフトウエアの働きを失つてしまった。これくらゐ始末に自へぬ適応異常はさうい

結論を言う

読者に訴ふる 私の願ひ
唯一の

言葉に訴ふる 適応異常の克服こそ、